

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
サウンド基礎											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	倉本 淳二			実務 経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
授業概要											
<p>日常に溢れている音という現象について、物理的・経験的に理解する事を目的とする。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって、手軽なものとなり、簡単な操作ですれば何かしらの音の変化を起こすことが可能となった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。</p>											
到達目標											
<p>まずは音が空気という媒質を使ってどのように人間の耳に到達するか、そして人間にとっての音と、機械によって測定される音との違いを理解し、様々な音の種類についても学ぶ。現象だけではなく、音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶していただき、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>対面式とオンライン式の授業を用いて反転授業形式にて授業を進めていく。復習と予習を効率よく取り組むことができる体制を整える。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 80% 試験を総合的に評価する 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	前期ガイダンス：講義の内容、進め方										
第2回	音の概念と音響特性1：音とは何か？ 音の分類、音の伝播										
第3回	音の概念と音響特性2：音の性質、聴覚、良い音とは										
第4回	レコーディングについて：レコーディングの手法、手順について										
第5回	ワンポイント・マルチポイント収録：ワンポイント・マルチポイント収録について										
第6回	マルチトラックレコーディング1：マルチトラックレコーディングにおけるメリット・デメリットについて										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
サウンド基礎	
第7回	マルチトラックレコーディング2：実際の作業について理解する
第8回	信号の伝送方法：バランス型・アンバランス型
第9回	ミキシングコンソール1：スプリット型について理解する
第10回	ミキシングコンソール2：インライン型について理解する
第11回	マイクロフォン1：指向性について知ろう
第12回	マイクロフォン2：ダイナミック型・コンデンサー型 概要
第13回	マイクロフォン3：ダイナミック型 動作原理
第14回	マイクロフォン4：コンデンサー型 動作原理
第15回	マイクロフォン5：特殊マイクロフォン ステレオマイク、ガンマイク、PZM